

インキュベーション施設の運営 ノウハウ生かしベンチャー支援

「インキュベーション施設の運営で培ったノウハウを生かし、ベンチャー企業のハード・ソフト面を支援できるビジネスモデルを築いていきたい」と話すのはアイ・ビー・ビー(福岡市)の篠原保彦社長。

インキュベーション施設の運営を中心に営業支援や資金調達、財務などのコンサルティングやビジネスマッ

チングをワンストップで解決するベンチャー企業の支援を実現しようとする。「経済環境が厳しい中、IPO(株上市場)を果たす企業は減っているが、景気の動向に左右されずに、IPOに対する意識の高い企業をサポートをしていきたい」と篠原社長は意気込む。

廣田商事のインキュベーション事業部を分社化。ベンチャー支援に特化

同社は不動産賃貸、管理業の廣田商事(福岡市)のインキュベーション事業部から分社化して09年に設立。廣田商事社長の廣田稔氏が会長職に就き、篠原社長が経営のかじを取る。会社設立の背景には、廣田商事が00年にスタートしたベンチャー企業や子育て

の支援事業「ibbfukuoka project」の実績がある。

「世界ブランド企業を福岡から輩出したい」(廣田会長)

として、福岡市内にある自社ビルをリニューアルして同年、インキュベーション施設「ibbfukuokaビル」の運営

に乗り出す。ベンチャー企業の入居に限り、相場の5割程度の家賃設定で賃貸期間は2~3年。ミーティングルームの無料使用や同社物件の相互利用ができ、一般テナントを入居させることで収益バランスを取るビジネスモデルを構築した。

このノウハウを生かし06年にはSOHO型マンション「ibb will 姪浜」、07年に保育所を併設する「ibb wish 長丘」の運営を手掛けた。「不動産事業を通して、ベンチャー企業や子育ての支援

にかかわり福岡を活性化させたい」と廣田会長は話す。

不動産の運営といったハード面のみならず、起業家向けのセミナー開催なども積極的だ。全国的に展開される起業家支援事業「ドリームゲート」の福岡地区アドバイザーとしてIPOや資金調達方法など各種セミナーを開催するなど、ベンチャー企業のソフト面の支援にも取り組んできた。

インキュベーション施設の入居企業は累積で90社を超え、3社がIPOを果たした今、「プロジェクト開始から10年の節目を迎えるにあたり、ベンチャー企業の支援に特化した新会社を設立したかった」と廣田会長はアイ・ビー・ビー設立の意図を語る。

篠原社長は「10年間の蓄積を生かし、民間や公共のインキュベーション施設の受託運営も手掛けたい」として中核事業の布石を打つ。ベンチャー企業の支援については「プロジェクトを通して法律や財務など幅広い分野の人とのつながりができた。この関係を生かし、ベンチャー企業のニーズに対応していきたい」と展望を語る。



篠原保彦社長

「アイ・ビー・ビー」

ibb

福岡市中央区天神2-3-36
Tel.092-737-6360

<http://www.hirota-shoji.com/ibb/>

BUSINESS ANGLE

ハード・ソフト両面から
ベンチャー企業の支援に特化



同社が運営する「ibb fukuokaビル」